

門前町の復興に、何が必要か？

▽ 写真=3月6日の黒島の海



門前復興研究

発行所
Learning Crisis 研究会
連絡先: dsat.shibata@gmail.com
災害支援 NPO ありんこ
石川県輪島市門前町道下 22-9- 丙 -1
web サイト:
<https://arinko.crayonsite.net>
「門前復興研究」は
「ふくしまキッズプロジェクト in こだいら」
のご助成で発行しております。

なぜ門前に、ボランティアが必要か。



門前町に必要なものは、なんだろうか。あの一月一日から3ヶ月。能登半島には、いろいろな支援の情報、なかには「うわさ」も、かけめぐっている。実はすでに専門NPOが色々な支援をしていて、現在も行政がどんな支援を準備していて、これからも「すごい復興プラン」が実施されるようだ。そういった「うわさ」が絶えない一方で、いま、ここには、支援してくる人手も、資金も、十分ではない。それが、「門前町の現実」になりつつある。

困難な自然災害だからという理由は、もちろんあるだろう。能登半島の特殊性という理由も、繰り返し聞いた。しかしなによりも、もう3ヶ月なのだ。門前町の3ヶ月間の現実が、このまま続いていいということ、絶対にはない。門前に必要なのは、これ以上の専門家でも押し付けられなかった支援でもない。今求められているのは、今の「門前町の現実」を、今変えるための「社会全体の支え合い」なのだと思う。その共同性のあらわれこそが「ボランティア」なのだ。門前で今何が起っていて、それは何故なのか。これから何が起りそうか、それにはどういう意味があるのか。一緒に調べ、考えていきたい。

私たち「Learning Crisis 研究会(ラーニングクライシスけんきゅうかい)」は、東日本大震災以来のさまざまな災害を研究してきた大学教員・院生・学生の集まりです。能登半島地震では「災害支援チーム」を派遣してきましたが、門前町での情報不足、説明不足に少しでもお役にたてるよう、新しい実証実

『門前復興研究』創刊します。

私たちが「Learning Crisis 研究会(ラーニングクライシスけんきゅうかい)」は、東日本大震災以来のさまざまな災害を研究してきた大学教員・院生・学生の集まりです。能登半島地震では「災害支援チーム」を派遣してきましたが、門前町での情報不足、説明不足に少しでもお役にたてるよう、新しい実証実験をおこなうことになりました。現地NPO等と連携して、研究者なりに現地情報を集め、分析した新聞を月1回程度、定期的に無料発行いたします。みなさんと一緒に調べ、考える場にしていきます。どうぞよろしくお願いたします。web サイト: <https://monzen.learningcrisis.net>

門前町子どもたちに、思いっきり遊べる「空間」を

門前「ありんこの家」、およびプレイパーク、着々準備中

門前町に支援にはいつている災害支援NPO「ありんこ(ほりぐちさゆり代表)」では、現在門前町で子どもたちが安心して遊べる拠点づくりをしています。



▽写真II災害支援NPO ありんこ

東日本大震災の際に問題になったのは、「被災地の子どもたちの生育」でした。大人が増えて子どもたちは、ストレスを抱えてうまく発散できなくなりました。NPO ありんこでは、いつもと変わってしまった町で安心して遊べない子どもたちのために、「ありんこの家」という拠点を整備するとともに、道下地区で屋外でも遊べるプレイパークの整備に乗り出しています。どうしても若年人口が流出しがちな中で、子どもをサポートする取り組みは、将来の門前町を担う子どもたちのために、一刻も早く必要になっています。

災害支援 NPO ありんこ web サイト: <https://arinko.crayonsite.net>

共に調べ、考えるための、情報をまとめています。

学生ボランティアと

門前のまち・人

第1回

本特集は、門前の今を、学生ボランティアの視点から
つづったものです。地域との出会い・人との出会いは、
彼ら彼女らにとって「支援する・される」という関係に
とどまらない経験となっています。

「門前での経験と想い」 金沢大・1年

3月6日、発災後2ヶ月にしてようやく私は奥能登に
支援に行けることとなった。ずっと金沢に居た私は、輪
島市に向かう道路は報道通り悪路であり、渋滞を起こし
ているのだろうと思っていた。でも、そうではなかった。
確かに凹凸はあり路肩が落ちているところもあったが、
車両はもう比較的通れるように思えた。渋滞も凹凸に気
を付けるために速度を落とした走行をしているくらい
で、帰省ラッシュの時の方がよっぽどひどいと感じた。
市街地を避ける配慮をするなど、ルートを選べば地域の
方へ迷惑をかけないように目的地にたどり着くことがで
きるという事実には、私はショックを受けた。しかし、道
は復旧してきているのに、家はまだつぶれたままのとい
ろが多かった。少し町を歩くと、家々に貼られた危険度
判定の色紙が目に入る。赤、黄、赤、赤。「丸2ヶ月でまだ
こんな……」と思わずにはいられなかった。「いち大学生が、
何をできるのだろうか」と考えさせられる光景であった。
ボランティア活動の中で、地域の方とお話させていた
だくことができた。その方は長く門前にいらっしゃるよ
うで、地理からお裁縫まで知識も豊富、そして気さくで
いらっしゃった。地理に疎い私に奥能登の地理を教えて
くださった。一緒にアニメの話で盛り上がった。大
学のサークルで行っている金沢での支援活動についてお
話しすると、「金沢……支援……遊ばる……」
と少し揶揄うように言われ、「し、辛辣……」と思うこと
もあった。しかし、その後で「そういう『遊び』っぽい、
明るい支援も必要だし、大学生にはそういう経験も大事」
と伝えてくださり、とても温かい方だと思った。地元愛
と豊かさ、温かさを感じたひと時だった。

今回の経験を通して、ある程度ボランティアが来られ
る状況なのにもかかわらず、人手が全く足りていない現
状を知った。大学生は若くてある程度体力もあるので、
現地できっと何か力になれるはず。ボランティアに興味
のある大学生はぜひ現地に足を運び、地元の皆さんをお
手伝いし、学びを得てほしい。私自身も、また門前に行
きたいと思う。（終）

「初めての災害ボランティア」 金沢大・5年

門前町中心部はまさに惨状そのものだった。多くの
家屋がペシャンコに潰れ、とても住むことができない状
態とは言い難かった。ニュースで被災状況は見聞きし
ていたものの、実際の様子とは雲泥の差と言わざるを
えなかった。想像を遙かに上回る被災地の厳しい現実
を前に、一若造に何ができるのかと、途方に暮れてし
まった。心に傷を負われた方とどう接すればいいのか、
経験不足のせいで迷惑をかけないだろうか、最後まで
やり通せるのだろうか、不安でしかなかった。

だがそれは杞憂に終わった。経験も物資もない中で
知恵を出しあい、協力しあい、お互い足りないところ
を補いあった。被災された方からの感謝の言葉が確実
に自信へと繋がっていった。被災された方の助けにな
るはずが、私のほうが助けられている気がして少し恥
ずかしくなった。家屋の泥だしもがれきの撤去も決し
て楽とはいえない重作業であったが、助けを求めてい
る人の笑顔と、協力しあえる仲間を思うと、身体中に
どっと押し寄せてくる疲れとズキンズキンとした全身
の筋肉痛も不思議と耐えることができた。バックグラ
ウンドも関係なく、復興という大きな目標に向かって
人々が一つになるこの連帯感は、味わったことのない、
とても尊いものだった。

今回できたことは、数多ある
支援活動のほんの一部にすぎな
い。終わりの見えないがれき撤
去作業、被災者の心を温める足
湯活動、仮設住居での支援活動
など、やるべきことは山ほど残
っている。一刻も早い復興を成
し遂げるには若い力が今まさに
必要だと改めて認識した。今回
得た経験を多くの人に伝え、協
力者を増やしていくことがこれ
からの自分の使命だと胸に刻ん
だ。最後に、初めての災害ボラ
ンティアで不安だらけだった私
の心に深く残った言葉を紹介し
たい。それは足湯活動の時のこ
からの一言だった。「調子の悪いところを顔に出したら、
見ている相手も調子を悪くしてしまう。調子が悪いの
なら相手の元気なところを少しでももろうようにしな
さい」。次は私からいっぱい元気を分け与えたい、そう
決心した。（終）



＜写真＞お宅の片付けの様子。

門前町 ニュース・ イベント かわらばん

★手仕事事屋さん、お蕎麦再開近し！

總持寺門前の「能登手仕事屋」さんで、いよいよ
お蕎麦が再開！これまでも蕎麦粉を生かしたガレット
や、お出汁を活かした親子丼で好評を博しておりまし
たが、本格的にお蕎麦の営業をはじめるとのことです。
被災地で一番重要なのは、地域経済をまわしはじめ
ること。手仕事事屋さんのような地元のお店で、お料理
をいただくことは、まさにその第一歩になります。
ぜひとも応援しましょう。

◎お店「能登手仕事屋」
住所…門前町門前22



★初心者向けパソコン教室を準備しています

東日本大震災のさいには、公民館からお引越され
たり、仮設住宅へ入居されたりと、転居通知が必要に
なる方が多くいらっしゃいました。少し勉強すれば、
パソコンとプリンタで簡単にできるようになります。
「の研」では、初心者の方向けパソコン教室を準備して
います。お問い合わせは「の研」（担当…柴田）まで。
連絡先（担当…柴田）☎ dsat.shibata@gmail.com

★「思い出サロン」に参加してみませんか

地域の方と一緒に、「思い出」を語り合うサロンを
企画しています。門前町は、700年を誇る總持寺を
はじめとして深い歴史があり、地域のみなさんはその
中で、豊かな日常生活を積み重ねていらっしゃいまし
た。その「思い出」を語り合うことは、気持ちを暖か
くしたり、繋がりを深めたりする効果が期待されてい
ます。ぜひ参加してみたいという方は、ご案内をお送
りいたします。お問い合わせは、「の研」（担当…柴田）
まで。
連絡先（担当…柴田）☎ dsat.shibata@gmail.com